

「マイ避難計画」住民が作成

水害経験した茨城・常総

2015年9月の関東・

東北豪雨による鬼怒川の堤防決壊を受け、国土交通省と茨城県常総市などは、住民一人ひとりに自分にあった避難行動計画「マイ・タイムライン」作りを促している。住民の家族構成や生活スタイルに合わせて避難行動を専用ノートに書き込んでもらい、避難が必要ない時に冷静に行動してもらおう狙いだ。全国初の試みで、国交省は将来、全国に普及させたい考えだ。

鬼怒川の堤防決壊で常総

市内の3分の1が浸水、約4200人が救助された。

国交省は堤防の補強工事を進める一方、避難手順を時系列でまとめたタイムラインを自治体と作り、住民の避難態勢の確立に取り組んできた。ただ、いかに計画を住民に伝え、行動を促すかが課題として残った。

そこで、国交省下館河川事務所などは、避難情報が出た時に何をするか、住民に書き加えてもらうことにした。「マイ・タイムライン・ノート」を用意し、常

総市内2地区で講習会を始めた。

その一つ、根新田地区の講習会には155世帯のうち73世帯が参加。備蓄食料は何人分必要か、隣町まで避難する必要があるかなど、家族構成や住所によって自分の避難計画が変わる

ことを学んだ。鈴木孝八郎区長(74)は「互いにノートを見せ合えば、助け合いも生まれるはず」と話す。

完成は数回の講習会を終えた今年2月の予定。国交省河川環境課の宮本健也企画専門官は「住民一人ひとりを対象にした初の取り組みだ。自治体とのタイムライン作りは進んだが、住民の意識を高めるのはまだこれから」と話す。(三嶋伸二)



「マイ・タイムライン」のノート。左側にある国や市からの情報に応じて、右側の空欄に自分の避難行動を書き込んで完成させる＝茨城県常総市